

まじくと会便り

2020/7

三月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大防止のための様々な自粛生活。緊急事態宣言も一旦解除になりましたが、第二波への危機感も依然呼びかけられております。皆さま、いかがが過ぎでしょうか？

二月三月はお寺の行事もほとんど無いので最初は実感が湧きませんでした。四月になり新年度の行事が次々と中止、中止の連続。それこそ今までに経験したことのない春を過ぎました。「三密」を避けるために政治や教育、経済など社会活動においては様々な弊害が起こっております。しかし一方、家庭生活においては近年まれにみる密な時間を過ごした方も少なくないでしょう。見方によってはマイナスばかりでもなさそうです。光圓寺では春季永代経法要を初めてインターネット配信しました。若い世代の方が家にいる時間が多いおかげでお年寄りの方でも閲覧できるようにパソコンの準備してくれたり、一緒に視たりと予想以上の反響をいただきました。日頃は仕事でお参りできない方々にも後日でも視聴できると喜ばれ、おみのりを伝える新しい手段としての手応えを感じました。

行事予定



八月 五日 ヨガの会

八月 十三日 光圓寺 盆法座

※今年のお盆の駐車規制のお知らせ

八月 十日(月祝)・十一日(火)・十二日(水)

午前七時～午後七時

寺町通りは駐車禁止の警備が立ちます

※今年度の各行事については新型コロナウイルス感染症拡大防止のために変更・中止することが

ございます。ご了承ください

おや？似た名称が……

誤解しないようお気をつけ下さい

つい先日、近所のお寺さんから「南観音にこうえんじってローマ字で看板を掲げている納骨堂があるの知ってる？」と教えてもらい、驚きました。

住職が調べてみたところ、可部東の宗教活動を停止されたお寺に晃円寺というのがあって、恐らくどこかの業者が名義だけ買い取って使っているようです。漢字で表示されてあれば違いは一目瞭然のところ、あえて誤解を生むような表示がされているところに危険を感じます。今回は特に光圓寺のご門徒の多い地域でもありますし、心配しております。

近年過疎化が進み寺院活動を停止したお寺の宗教法人格が売買されて、正しくない使われ方をしている問題を耳にします。お寺という安心感につけ込む詐欺まがいの業者も少なくありません。

何事も直接お寺にご確認くださいませ。

【春季永代経法要 坊守覚え書き】

*永代経

「永代経法座」とは、祖先の方、私に縁のあった方々みなさんのご法事です。浄土真宗では追善供養を言いません。亡くなった方はもうすでに仏さまにならせていただかれていますから、凡夫の私たちが善を送る必要はないのです。では、なぜ法事をするのか。それは、私たちの前にお念仏を喜ぶ人生を歩いてくださった方々へ感謝するために勤めさせて頂くのです。いま私たちが浄土真宗のおみりに出会うことができているのはその先人からご縁をいただき、お育ていただいているからです。そのお姿を伝えて頂いた尊い教えと仰ぎ、感謝するためのご法事です。ここを込めて勤めましょう。



とはいえご法事で勤めるお経、どのような内容なのかお考えになったことがありますか？お経には私たちへのお呼びかけが詰まっています。社会的な価値観では答えを見いだせない問い、「人生とは何なんだろう、何の意味があるのだろうか」という問いに対して、いのちの見つめ方を教えてください。それが私たちに対するお呼びかけです。あなたの人生はお浄土へ参

らせていただく人生なんだ。仏さまにならせていただくための人生なんだよ。だからお念仏の人生を大切に生きぬいておいで。と、何度も繰り返し呼びかけてくださっているのです。

*俱会一処

阿弥陀経の中の言葉で「ともにひとつ所で会う」という意味があります。命尽きた時、みな同じところに往かせてもらうということです。この「同じところ」というのを墓の下と誤解される方がいらっしゃいます。亡くなった方の霊魂が墓の下に眠っているとは浄土真宗では考えません。もちろん先人の骨を納めたお墓は大切ですが、それは此の世を生きる私たちの心の拠り所として、

形見、という意味で大切なのです。

先に行かれた方々はお浄土に往かれているのですから、ともに会えるひとつ所とはお浄土しかありません。この世の命を終えた時、阿弥陀如来様のもとでまた会うことができる。だから俱会一処という言葉には、どうかあなたも迷うことなくお念仏の道を歩んできておいでという、仏さまと先人からのお呼びかけが込められているのです。

